

## 令和7年度 第6回 見附市まちづくり総合審議会 議事概要

- I. 開催日時 令和8年3月25日(水) 10時00分～11時30分
- II. 開催場所 見附市役所4階 大会議室
- III. 出席委員 渡邊 誠介委員、原山 義史委員、星野 和孝委員、大坪 重雄委員、  
徳橋 功委員、小林 正和委員、坂下 裕之委員、木澤 宇弘委員、  
重信 元子委員、鈴木 孝子委員、若林 千映子委員、結城 愛美委員、  
佐藤 宏子委員、本間 唯莉委員、岡山 せい子委員、神 友里委員  
(出席者16名/委員18名)

### IV. 会議の概要

#### 1. 開会

##### 【事務局】

出欠報告

委員の過半数が出席していることから、見附市総合計画審議会条例第6条第2項の規定により会議が成立していることを報告する。

#### 2. 会長あいさつ

##### 【渡邊会長】

これまで1年間議論してきたものが、本日最終的な形になる予定である。この第6次見附市総合計画をより良いものするためには、部分最適ではなく全体最適の考え方が重要である。どこか一部だけが良くなっても、他が悪くなつてはいけない。市全体が協力し、まち全体が元気になることが重要である。今回の計画も、そのような全体最適を目指したものである。

本日は最終確認として、パブリックコメントを踏まえてどのように修正されたかを確認したい。また、この総合計画を市民にどのように伝え、協力を得ていくかが重要であるため、その点も含めて議論をお願いしたい。

#### 3. 議事(審議会条例第6条第1項に基づき、議事進行は渡邊会長へ)

##### 【渡邊会長】

それでは(1)第6次見附市総合計画(最終案)について事務局より説明願う。

##### 【事務局】

(資料1、資料2、資料3に基づき、第6次見附市総合計画(最終案)について説明)

##### 【渡邊会長】

事務局の説明に対して意見のある委員はいるか。本間委員いかがだろうか。

##### 【本間委員】

プロフェッショナルの方が意見を述べられているだけでなく、市民の皆さんからこれだけの意見が出るパブリックコメントの重要さを感じた。

##### 【渡邊会長】

小林委員いかがだろうか。

##### 【小林委員】

パブリックコメントの意見は多いが、提出者が4名というのは少し寂しい気がした。ただ、これは市民の皆さんがご覧になって特に意見がないという「無言の賛成」も含めてのことだと思う。期間も1ヶ

月取られているので、これで受け取りたい。

**【若林委員】**

周知について、最終的にこの冊子は全戸配布されるのか、ウェブ公開のみなのか。市外在住で職場が見附市の方等は特に自分から求めていかないとなかなか情報が入らないと感じたので、紙媒体のものがあれば公共施設等に配布・設置していただけるとありがたい。

**【事務局】**

市民の皆さんへ冊子の全戸配布はせず、本編はホームページでご覧いただくことを想定している。4月の広報みつけで概要を掲載する予定である。また、市長が直接市民の方と意見交換を行うふれあい懇談会等を通じて内容を伝えていきたいと考えている。また、市外から通勤されている方々にも可能な限り本計画の内容が伝わるよう、PR方法を工夫していきたい。紙媒体の公共施設等への配布についても検討していく。

**【徳橋委員】**

総合計画のボリューム感を考えると難しいとは承知しているが、視覚障害や聴覚障害をお持ちの方のために、点訳や音声訳などの情報提供も検討いただけるとありがたい。

**【事務局】**

「誰一人取り残さない」視点を掲げているので、様々な状況に置かれている方にも伝えられるよう、工夫していきたい。

**【重信委員】**

総合計画の概要版は作成するのか。また、パブリックコメントでもあった横文字の説明やわかりやすい表現についてどう考えるか。

**【事務局】**

第5次総合計画では概要版を作成していたが、今回は広報みつけの特集に切り替えたいと考えている。横文字については、パブリックコメントの意見で出たものは可能な限り、注釈を加えたり、説明を加筆したりして修正を図った。一方、横文字について文脈の中で説明されているものは、原案のままとしたものもある。横文字をさらにわかりやすい言葉に変えた別のものを作ることは現時点では考えていないが、今後声があれば検討したい。

**【結城委員】**

先ほども意見があったように、人口減少の抑制という目的があるのであれば、この計画についても市外、県外で移住を検討している若い人にも伝わるよう工夫が必要。説明では、LINE配信とあったが、インスタグラム等、SNSも活用した方が良いと感じた。

**【渡邊会長】**

SNSの活用なども含め、市外の方々にも届くよう明確にターゲットニングしていただくようお願いする。

**【木澤委員】**

パブリックコメントの4名はどのような方か。また、疑問に思ったのは、周知のあり方として市民全体に伝わるには、どのような方法があるか。市民の声を集約し、反映する方法について、今後の展望はあるか伺いたい。

**【事務局】**

パブリックコメントをされた方については、具体的な回答は差し控えるが、計画をよく読み込み、市他の計画との整合性について言及されている。普段から見附のまちづくりに関心を持ってくださっている方々だと考えている。市民の声を集約については、現在、この総合計画のみを目的に意見交換を行

うことは想定していない。ただ、先述のとおり「ふれあい懇談会」が年10回程度開催されている。特に令和8年度は計画が動き出す年でもあるので、ふれあい懇談会の中でも丁寧に対話していきたい。

#### 【鈴木委員】

地域コミュニティでもこういった計画があることをほとんど知らない方が多い。地域コミュニティの回覧物にしても、お知らせが届かない、伝わらないことはよくある。なかなか総合計画や市の施策を自分事として考えるのは難しいと感じる。以前、自身もふれあい懇談会にも参加したが、市長からはさまざまな施策についての話があったものの、参加された方の意見は、日々の生活の中で気になる点を意見される方がほとんどである。

#### 【事務局】

総合計画は、市役所だけの計画ではなく、見附市全体で市民・企業・各種団体の皆さんと一緒に取り組んでいく計画である。そういった意味で、しっかりと皆さんに知っていただく努力を今後も続けていかなければならないと考えている。特に、先ほどの結城委員からのご意見の通り、若い方や県外の方にはSNSをご覧になるケースが多いと思うため、可能な限り情報を発信していきたい。また、対面で伝えていくことも重要であると考えており、ふれあい懇談会においてもテーマに沿った部分について詳しく説明するなどの工夫を加えながら、市民の皆さんに知っていただき、一緒になってまちづくりに取り組んでいただけるよう、伝える努力を継続していきたいと考えている。

#### 【神委員】

今回この会議に参加して、総合計画についてのまわりに話をすると「それって何なの？」と返ってくる人が多いと思っていたが、総合計画について知った時に、それがどのように自分の生活に関係するのかというコメントをもらうことが多かった。総合計画を知ることのメリット、例えば生活にどうつながるのかという関わりしろのようなものが見えてくると良いと思った。

#### 【事務局】

総合計画の周知は、例えば市のイベントや補助金の情報を知って申請・参加することで直接的なメリットが得られるというようなものは性質が異なる。今回の総合計画は、特に人口減少の抑制をかけて、現在ある見附市の魅力をさらに磨き上げ、将来の世代に引き継いでいくという内容になっている。今一緒になってまちづくりに取り組んでいただくことで、未来の見附市を作っていくという、直接的なメリットとは言えないかもしれないが、自分たちの生活を守っていくことにつながるものだと考えている。もし知り合いの方に聞かれたらそのようにお伝えいただけるとありがたい。

#### 【神委員】

パブリックコメントの件数について、過去と比べてどうだったのか。

#### 【事務局】

5年前の第5次総合計画の時は、意見は今回の半分程度だった。意見者数もそこまで変わらないが、寄せられた意見の数は増えている。

#### 【渡邊会長】

この総合計画において、最大の課題は人口減少であり、徐々に進んでいくものであるため、緊迫感が生まれにくい側面がある。人口減少社会に向けて、市民全体で一丸となって見附の魅力を磨き、発信していくというのが基本方針であり、それに異を唱える人はあまりいないというのが広報周知の課題だと思う。総合計画で示された基本指針を受けて市民がどうやって関わることがわからないという点については、まずは皆さん自身で見附の魅力を見つけて発信していただき、気づいていたこと、協力してもらいたいことがあれば、市の担当者に相談するという、市と市民とのコミュニケーションを高めていくことが重要ではないかと思う。この総合計画ができたが、これをそのまま置いておくのではなく、みんなできかに活用していくかというところにつながるのかと思う。

それでは（2）第6次見附市総合計画の進捗管理について事務局より説明願う。

**【事務局】**

(資料4、資料5に基づき、(2)第6次見附市総合計画の進捗管理について説明)

**【徳橋委員】**

資料5の「【基本目標3】安心していきいき暮らせるまちづくり-基本施策(3)健やかに暮らし続けられる地域づくりに取り組みます-主要施策⑥複合的な課題を抱える世帯への支援体制の充実を図ります」について、この項目は厚生労働省が主導する「重層的支援体制整備事業」を意識して章立てされていると思う。ただ、その指標として「生活困窮者自立支援事業相談受付件数」とあるのは、専門的な視点として、先の事業との関連性が弱く、違和感があると感じた。ただ、この主要施策において、関連性の強い指標を検討するのもまた難しいと感じるため、このままで良いとは感じる。

**【事務局】**

指標の選定は難しい作業であったが、いただいたご意見を踏まえ、担当部局とも相談して最適な指標について引き継ぎ検討したい。

**【小林委員】**

いよいよ計画ができて進捗管理というところで、立派な計画を作っても、それが本当に順調にいつているかどうかをしっかりとチェックすることが大事だと思うし、それを市民の皆さんに正しく伝えることが重要だと感じている。計画の周知という話があったが、計画の内容だけでなく、それが良い方向に向かっているのかどうかを伝えることが大事だと思っている。今後、まちづくり総合会議にて進捗管理をするということだが、以前の審議会でもお話しした通り、指標の評価において、◎・○・△などがあって、目標を達成していないのに数値が好転したから○という評価に違和感があると申し上げたところである。なるべく市民の方に正確な姿が伝わるような評価をぜひお願いしたいと思う。

**【渡邊会長】**

ご指摘の点を踏まえ、評価の仕方、伝え方について、しっかり考えていきたい。

**【岡山委員】**

計画の冊子だとボリュームが大きくてわかりにくいという部分もあるが、資料5の指標や数値で見るとむしろ何を目指してどこを達成目標としているかがわかりやすいと感じた。また、自分がその中でどこに関われるかを見ることもでき、市民が自分ごととして捉え、どういう方向を目指しているのかがわかりやすいと思った。

**【事務局】**

資料5の指標一覧についても、今回の会議の議事資料としてホームページに掲載する予定である。今後も総合計画の評価・検証を行い、まちづくり総合会議での資料や議事をホームページへ掲載して、順調に進んでいるのか、お伝えしていくようにしたいと考えている。

**【渡邊会長】**

その他全体を通じてご意見などがあればお願いしたいが、いかがか。

(特に質疑無し)

特になければ、本日意見の無かった委員からも、最後に一言コメントをいただきたい。

**【坂下委員】**

今後については、PDCAサイクルが非常に重要である。それ自体が年1回になるということで、その際には前年度の指標実績を含めて適切に評価した上で、その改善策が妥当かどうかについても審議会で議論したとしても、それをフォローするのが翌年度になるということがある。会議をいたずらに増やせばいいというものではないことは理解しつつも、果たしてPDCAが適切に機能するかどうかというところは、課題だと思う。

**【事務局】**

市の予算編成とも合わせ、夏頃に実施することを考えていた。PDCA サイクルをしっかりと回せるよう、開催回数も含めて検討したい。

**【佐藤委員】**

計画策定の中で、自分が日々生活している中で、誰かがどこかで何かをしてくれているので自分の生活ができていくという、当たり前のようなことを感じた。この細かい資料の全てを理解するのは難しいかもしれないが、いろんな方を交えて検討してきたということを知っていただけたらいいのではないかと思った。

**【星野委員】**

議員からパブリックコメントにて実名で意見を出してもらうなど、よりはっきりした意見が見えると良いと思う。

**【事務局】**

市議会に対しては、計画策定について、随時、議員協議会等で意見交換を行いながら、本計画の策定を行ってきたところである。パブリックコメントは一般市民の方から総合計画について意見を募っているという性質のものであり、市議会議員より意見をいただくことを目的としたものではないという点をご理解いただきたい。

**【原山委員】**

この総合計画について、市民の皆さんは市長や行政のものだろうなと思っているのがほとんどであり、自分ごととして考える人は少ないと思う。総合計画に掲げている内容を実現するためには、いろいろな市民との対話の中で、あなたには地域でこの役を担ってほしい、この地域の方にはこの取り組みをお願いしたいという形で働きかけていくことで、市民が自分事になってくるのではないかと思う。

計画の周知についても、より良い広報をするには、コストがかかるわけで、現在の SNS 等の媒体も活用しながら、市民の方をどれだけ巻き込んで、この計画のために協力してもらうか、そこに尽きるのではないかと思う。

**【大坪委員】**

農業者団体の代表として、人口（食べる人）を増やしたい。子育て支援など費用が非常にかかることは大変だと思うが、以前審議会の中でも夫婦 2 人だけではなく年寄りも助けてくれるという話もしたので、たくさん若い人が、希望通りに結婚して、子育てをして、少しでも人口減少を食い止めてもらいたい。

**【本間委員】**

新ためて、議論をいただいた中で感じたこととして、広報周知のお話が多く出ていて、LINE やインスタグラムでの周知という話も出ていたが、SNS では文章と一緒に画像を投稿することになる。特にインスタグラムだと画像のインパクトが非常に重要であり、その画像が投稿を見てもらえるかどうかを決める大きな要素になっている。若者の方が多く利用されている SNS で若者の目を引く周知をするのであれば、ビジュアルのインパクトが非常に大事になってくる。今は生成 AI が急速に発展しているので、そういったものを活用しながら面白いコンテンツを作ることで、若者の人も興味を持っていただけたらと思った。

**【渡邊会長】**

それでは、他に意見はないか。

(特に質疑無し)

議事の中で意見のあった部分については、事務局より修正いただき、本日の最終案をもって「第 6 次

見附市総合計画」について、市長へ答申して、よろしいか。

(異議なし)

無いようなので、この最終案をもって、この後、市長へ答申を行う。

事務局は各議題に出された指示などを議事録で残してください。

これにて1年間にわたり実施してきた「見附市まちづくり総合審議会」での審議を終了したい。全6回におよぶ円滑な議事進行へのご協力に感謝する。進行を事務局にお返りする。

#### 4. 答申

(渡邊会長から稲田市長へ答申書を手渡し)

#### 5. 市長あいさつ

皆様には、ご多忙の中、まちづくり総合審議会委員として精力的な審議をいただき、感謝する。

令和8年度を初年度とするこの「第6次見附市総合計画」は、変化の激しい時代において、本市が進むべき道を指し示す「新たなまちづくりの羅針盤」である。現在、私たちは人口減少や少子高齢化、物価高騰、さらには気候変動といった、かつてない大きなうねりの中にある。なかでも、人口減少への対応は、一刻の猶予も許されない最優先課題である。

こうした状況を踏まえ、本計画では「魅力たっぷり 未来につなげる みんなのみつけ」を合言葉に掲げた。見附がこれまで築き上げてきた「住み良さ」という魅力をさらに磨き上げ、次世代へと確実に引き継いでいく。その決意を4つの視点に集約している。

まず1つ目は、「現役・次世代を取り込む魅力の創造・発信（シティプロモーション）」である。単に施策を実施するだけでなく、戦略的に発信していくことで、若者や子育て世代に「選ばれるまち」を目指すものである。子どもたちが見附を誇りに思い、市外や県外へ転出したとしても、「このまちが大好きだ」「このまちに戻ってきて暮らしたい」「このまちの役に立ちたい」と思える流れを築いていく考えである。

さらに、こうした取組を確かなものとするため、すべての市民が安心して暮らし続けられるまちを目指す「市民の誰一人取り残さない（サステナビリティ）」の視点や、日々の暮らしそのものが健やかさと幸せにつながる「健やかで幸せな暮らしを支える環境・仕組みづくり（スマートウエルネス）」の視点も重視し、まちづくりに取り組むものである。

また、まちづくりは行政の力だけで成し遂げられるものではない。最新のデジタル技術を活用することはもちろんであるが、それ以上に、見附の最大の強みである人と人とのつながりを生かした「あらゆる力を結集する（ソーシャルキャピタル&DX）」の視点を重視するものである。市民団体や地域コミュニティ、企業、学校など、あらゆる力を結集し、顔の見える温かな関係性を強めていくことが、持続可能な未来への鍵であると考えます。

見附に暮らす誰もが「このまちで暮らせてうれしい」と実感でき、日々の生活の中で自然に笑顔があふれる、そうした「暮らし満足No.1のまち」を実現するため、皆様からいただいた本答申を、全職員が一丸となって具体的なアクションへとつなげていく。さらに、市民にも本総合計画への理解を深めてもらい、共にまちづくりに取り組んでもらえるよう、広報見附や月1回程度開催しているふれあい懇談会などの機会を捉えて発信していく。

結びに、委員各位の健勝と今後ますますの活躍を祈念し、簡単ではあるが、お礼の言葉とする。

#### 6. 閉会

以上